

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4076200486
法人名	地域福祉研究所 有限会社
事業所名	グループホーム ほなみ
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市枝国430番地2 (電 話) 0948 - 23 - 4227

評価機関名	株式会社 アーバンマトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年2月20日	評価確定日	平成21年3月26日

【情報提供票より】(平成21年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤 9 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	3.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円		その他の経費(月額)	(光熱費) 15,000円		
敷 金	無					
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)		有りの場合 償却の有無	無		
食材料費	朝食	350	円	昼食	350	円
	夕食	466	円	おやつ		円
	または1日当たり 1,166円					

(4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数		18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1		3	名	要介護 2	4	名
要介護 3		1	名	要介護 4	4	名
要介護 5		4	名	要支援 2	0	名
年齢	平均	83.9 歳	最低	68 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大庭医院 / 小嶋病院 / 藤井歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景が残る閑静な住宅街に立地している2ユニットのグループホームである。広い廊下と高い天井が特徴的で開放感に溢れている。入居者が歩行訓練や運動など、機能維持を図ることができる空間としても活用されている。地域との交流を積極的にに行い、相互に多様な行事に参加できる関係を築いており、地域の交流会も年に2回実施している。外出の機会を多く取り入れており、健康・管理面に重点を置き、運動や食事に配慮している。職員～かかりつけ医まで情報を共有し、必要なサポートが受けられるように支援している。日課である散歩は、地域行事である「歩こう会」の参加を目標に日々楽しみながら行い、毎年、入居者の7～8名が2kmコースに挑戦し見事に完走している。散歩はホームの周囲を歩き、暑さや寒さなどの季節を肌で感じていただけるように取り組んでいる。管理者・職員は心身ともに元気に過ごしてほしいと日々の機能訓練などにより、入居者の喜びにつながるように目標を立て支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目	前回の評価結果を真摯に受けとめ、地域密着型サービスの役割を認識し、改善に向けた取り組みなどミーティングや運営推進会議などで取り上げ、話し合いを実施している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	地域との交流・食事内容の検討など、改善点について一つひとつ、運営推進会議・ミーティングなどで話し合い改善しており、自己評価も日々のケアやサービスを振り返る機会としてとらえ活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議は、地域との交流の場として活かし、防災訓練などの参加の呼びかけや交流会のお知らせなど情報交換を行って。会議では、運営について意見交換を行い、関係者各位の助言や指導を受けとめている。入居者のサービスの状況・感染症に対する注意など多彩なテーマで話し合い、運営推進会議は各種の分野の参加者と共に有意義なものになるように取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	玄関に苦情の受け付けボックスやノートを置き、オープンに意見を言っていた体制が取られている。長期入居されている方の家族などは直接管理者に話していただける関係を築いており、十分な時間を取り対応を行っている。出された意見については、ミーティングなどで職員と話し合い、運営に反映していくように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入しており、老人会・婦人会の慰問や見学がある。日課の散歩の際は、ごみ・空き缶拾いなどを行っており、地域の一員としての奉仕活動を行っている。年に2回の交流会には家族の他に地域の方の参加もあり賑やかに開催されている。ボランティア活動や介護実習生の受け入れも行っている。入居者が生き生きと暮らしていけるように、地域との交流は日常的に活発に行っており、地域密着型サービスの役割を果たそうと取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に根ざして、安心安全な生活、元気で楽しい生活、家族と同様」という地域密着型サービスの役割を理念に反映し、理解しやすい、わかりやすい独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については共有化を図るために、管理者や職員で話し合う機会を持ち、入居者と唱和するなど、日々のケアやサービス提供の中で理念を振り返る機会を持っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、老人会・婦人会の慰問や見学がある。日課の散歩は、ごみ・空き缶拾いなどを行っており、地域の一員として奉仕活動を行っている。年に2回の交流会には家族の他に地域の方の参加もあり、賑やかに開催されている。ボランティア活動や介護実習生の受け入れも行っている。入居者が生き生きと暮らしていけるように、地域との交流は日常的に活発に行っており、地域密着型サービスとしての役割を果たそうと取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を真摯に受けとめ、地域密着型サービスの役割を認識し、改善に向けた取り組みなどミーティングや運営推進会議などで取り上げ、話し合いを実施している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域との交流の場として活かし、防災訓練などの参加の呼びかけや交流会のお知らせなど情報交換を行っている。会議では、運営について意見交換を行い、関係者各位の助言や指導を受けとめている。入居者のサービスの状況・感染症に対する注意など多彩なテーマで話し合い、運営推進会議は各種の分野の参加者と共に有意義なものになるように取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、飯塚市より派遣する介護相談員の受け入れを行っており、市を通じて入居者が抱える不満や要望などがあれば匿名にて聞かせていただき、サービスの質の向上に努めている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度については嘉飯桂地区や飯塚市が主催する研修に必ず参加しており伝達講習も行っている。成年後見人制度については裁判所に出向き、費用や書類などの説明を受けている。現在利用されている方はいない。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問された際に入居者の日常生活を報告している。また、月1回、ほなみ通信に生活状況を報告し家族に配布している。金銭の取り扱いについてはマニュアルを作成し、マニュアルにそってホームが立て替え、月末に明細を添えて、家族に請求することとしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情の受け付けボックスやノートを置き、オープンに意見を言ってもらえる体制がとられている。長期入居されている方の家族などは直接管理者に話していただける関係を築いており、十分な時間を取り対応を行っている。出された意見については、ミーティングなどで職員と話し合い、運営に反映していくように努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や職員の異動は行わないように努力をしているが、職員のやむを得ない事情などによる離職などで異動がある時には、入居者にダメージがないように配慮している。極力、異動がないように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用に関しては、性別や年齢を問題視していない。本人の意欲や必要な人材であるかを基準にしている。また、職員の能力が発揮できるように取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	嘉飯桂地区・飯塚市主催などの人権研修には、必ず参加している。また、施設内において伝達研修を行い、職員全員に申し送りを実施している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職としての質の向上を図るために職員の能力に応じて研修を受ける機会を設けている。スキルアップを図るために積極的に資格取得を支援しており、介護支援専門員や介護福祉士に合格した実績がある。認知症や介護方法・感染症の取り扱いなど幅の広いテーマで研修を行い、ケアやサービスの質の向上を図っている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム合同の運動会の開催などで入居者同士の交流がある。介護相談員を通じ、地域の同業者との交流もあり、ホームの見学や相談ができる関係にある。同業者間の交流を高め、関係づくりに努めている。今後は更にネットワークにより地域への認知症の理解を高めることが期待される。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急に入居を求められることが多く、まず入居者本人と家族に見学していただき、1日の生活の流れやホームの理念について十分に説明を行っている。理解と納得を得て安心して入居できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昼食のカキ御飯の作り方を前日に入居者から教えてもらい、職員が炊飯する光景があった。入居者・職員がお互いに「ありがとう」と言える関係を築いている。食後の後片づけやテーブル拭きなど入居者が自分の役割と考え、暮らしの中で入居者ができることを様々な場面で行っていただくように取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	近々に行う外出の予定を立案されていたが、昼食の内容など職員が入居者一人ひとりに相談しながら希望を確認している。個人の暮らし方の希望や意向は家族からの情報に加え、できるかぎり会話の中から汲み取る努力を行っていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で入居者一人ひとりに個別にサービスを提供できるように努力されている。生活リハビリ・レクリエーション・散歩など、いろんなアイデアを持ち寄り介護計画を作成している。健康維持・回復を願って介護に携わっているのがよく理解できる。せっかく個別に介護をされているので、わかりやすくなるように介護計画の記入方法を改善されるとより目的や結果が明確になると考えられる。		
19	39	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じてミーティングなどで話し合っている。健康状態や精神状態など細かな話し合いが行われ、その時に応じたサービスが提供されている。細かな対応をされており、身体状況・精神状況についての追加・変更がわかりやすくなる工夫に期待したい。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近接して同地域の中に4ユニットのグループホームがあり、レクリエーションや合同行事など、お互いの交流を楽しみ、連帯感を育んでいる。また、民生委員の協力により、地域ボランティア(老人会・カラオケクラブなど)の慰問など地域との連携により楽しみごとが多い。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大庭医院の月2回の往診と緊急時には飯塚病院や市立病院との連携がある。かかりつけ医との連携については相互に強い信頼関係があり、相談しやすい関係が構築されており連携体制が整っている。医療連携の看護計画をもう少し明確に追加、記載されると理解しやすいものになると期待できる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの実績があり、指針も定められている。入居者や家族の意向にそい、重度化・終末期の方に対応できるように支援している。現在も重度化されている入居者がおられるが、日常生活の中で、普通の生活者としてホームで暮らしていただけるように取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの個性の尊重に努め、入居者の意向にそった言葉かけや対応に配慮している。記録や個人情報については、ホームの書類整理棚に管理・保管している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の暮らしのリズムや体調に配慮しながら、日課の午前・午後の散歩など声かけしている。自由に歩いて回ったり、居室に移動したり、入居者の思い思いのゆったりとした時間があつた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗と湯飲みは、本人の持ち物を利用している。盛り付けや配膳など一人ひとりの力量に合わせて一緒に取り組んでもらう時もある。「ごちそうだね」、「おいしかった」と職員に声をかける入居者の姿があり、食事を美味しく楽しみなものになるように取り組んでいる。また、定期的に「おやつバイキング」なども取り入れ、食生活の充実		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回の入浴日があり、職員の配置により時間調整を行い支援している。浴室は清潔で広くゆったりとしたスペースがある。首にタオルをかけて嬉しそうに待たれている姿が見受けられた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が自分の力を活かし、洗濯物干しや洗濯物たたみ・茶碗洗いやモップがけなどを行っている。畑では野菜づくりの世話をしている。散歩の際にはゴミや空き缶拾いなどを行い、地域に貢献できる活動にも、できる範囲で取り組んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月いろんな行事を予定し、花見やお雛様見学・外食など行事による外出を楽しんでいただけるように取り組んでいる。受診や家族に会いたいなどの希望時には対応できるように努力している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に鍵をかけることがなく、暖くなれば玄関を開放し、いつでも来客がこられるように取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害についての対策は運営推進会議において話しており、地域住民の参加を依頼している。消防署の協力や地域住民である町内の公民館館長・民生委員・地域の方の協力も得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理に気を使っており、栄養士の指導のもとカロリーコントロールされた食事を提供している。水分摂取量についても目標量を入居者に応じて設定し摂取を支援している。重度の疾患を持っている入居者もおられるのでカロリーについては医師の助言も受け健康管理を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり	高い天井と広い廊下が特徴的である。共用の空間には椅子が配置され、休息を取りやすい工夫がある。台所は対面式で作業をしている職員と入居者が気軽に話せる空間となっている。明るい光が差し込み、窓を開けると風を感じることができ、飾りつけも含め落ち着いた空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮	居室の入口には自分で作成した季節の飾りや職員から送られた感謝状などが掛けられ、室内は清潔に片づけられている。各居室には、家族の写真や個々の使い慣れたものが置かれ、居心地よく過ごせるように工夫している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			